

第6学年家庭科 「夏のさわやか計画を实践しよう」

學習指導者 笠原 千穂

題材の概要・子供と共有した目標

服が汗でびしょびしょになる、日焼けが痛い、熱中症の危険があるといった夏の問題を想起した子供たちは、暑い夏を快適に過ごしたいという思いをもった。そして「夏のさわやか計画を実践しよう」と題材のゴールを設定し、衣食住の観点でリストアップした課題を解決していった。

見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

前時に、手洗いで洗濯の流れを一通り試したが汚れが落ち切らず、本時に向けて、手洗いの仕方を工夫してよりきれいに汚れを落とそうと課題を設定していたことと、自分が試そうと考えていた方法を確認した。

前時に新しく出てきた問題点（靴下の汚れが落ちない）を基に、本時への意欲を高めている姿が見られた。



水をお湯に変えると落ちると思うよ。

洗濯の条件を変えて1番汚れが落ちる方法を見付けよう

行 動 諦めずに試行錯誤する姿

靴下をきれいにするために、お湯を使う、洗剤の量を増やす、洗う時間を長くする、もみ洗いやつまみ洗いなどの洗い方をする、という方法から自分が試したいものを選び、自由に試せるようにした。1回目は一つの方法を選んでその効果を検証し、2回目以降はそれらを組み合わせて試せるようにして、きれいになったという気持ちよさを感じられるようにした。

洗剤の量を増やしているんだね。どれくらい落ちるか私も知りたいな。

班の中で、試す方法について対話したり、効果の違いを比較したりすることで、より効果的な洗い方を見付けようとする姿が見られた。また、全体交流では洗剤の量を増やす工夫はデメリットが多いこと、まみ洗いは汚れを落とす効果が高いこと



私はお湯でもみ
洗いを試してみ
たらきれいにな
ったよ。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿・今後の学習や生活に生かそうとする姿

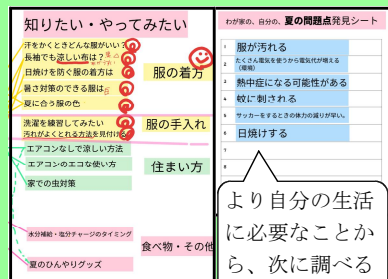
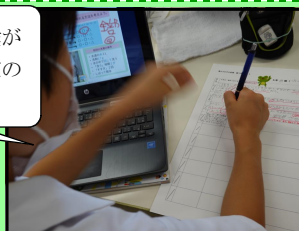
問題を発見して、課題を設定する姿

まずは本時の学習を通して、家で試したいと思ったことを振り返り、全体で交流した。その後、「今日はこの課題まで解決できたね。次の課題を設定するにはどうするとよかったかな」と問いかけることで、「**分かったことを確認して自分に必要だと思うものからすべきことを決める**」という、問題を発見して、課題を設定する方法を想起できるようにした。自分の生活の夏の問題を振り返り、題材の初めに家庭科の授業で取り組みたい課題としてリストアップしたものから、より自分にとって取り組む必要のある課題を選び、次時の課題を設定できるようにした。

僕はお湯は試していないけれど、友達が「汚れが落ちた」と言っていたから家のお風呂のお湯でやってみたいな。

「友達が効果があると言っていた方法を組み合わせて家で試したい」などと家庭実践への意欲を高めた。

その後、自分の問題を意識しながら、住生活や食生活の観点から取り組んでみたい課題を選択した。



より自分の生活
に必要なことから、次に調べる
課題を決める

考察（○：成果、▲：課題）

- 洗濯前後の靴下を写真で見比べたことで工夫の効果や達成感を感じることができていた。
- ▲ 課題設定の際に、自分の感じている問題を理解している子供もいたが、問題発見カードを見るように促すことで、より自分にとって取り組む必要のある課題から選べたのではないかと。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧ください。



